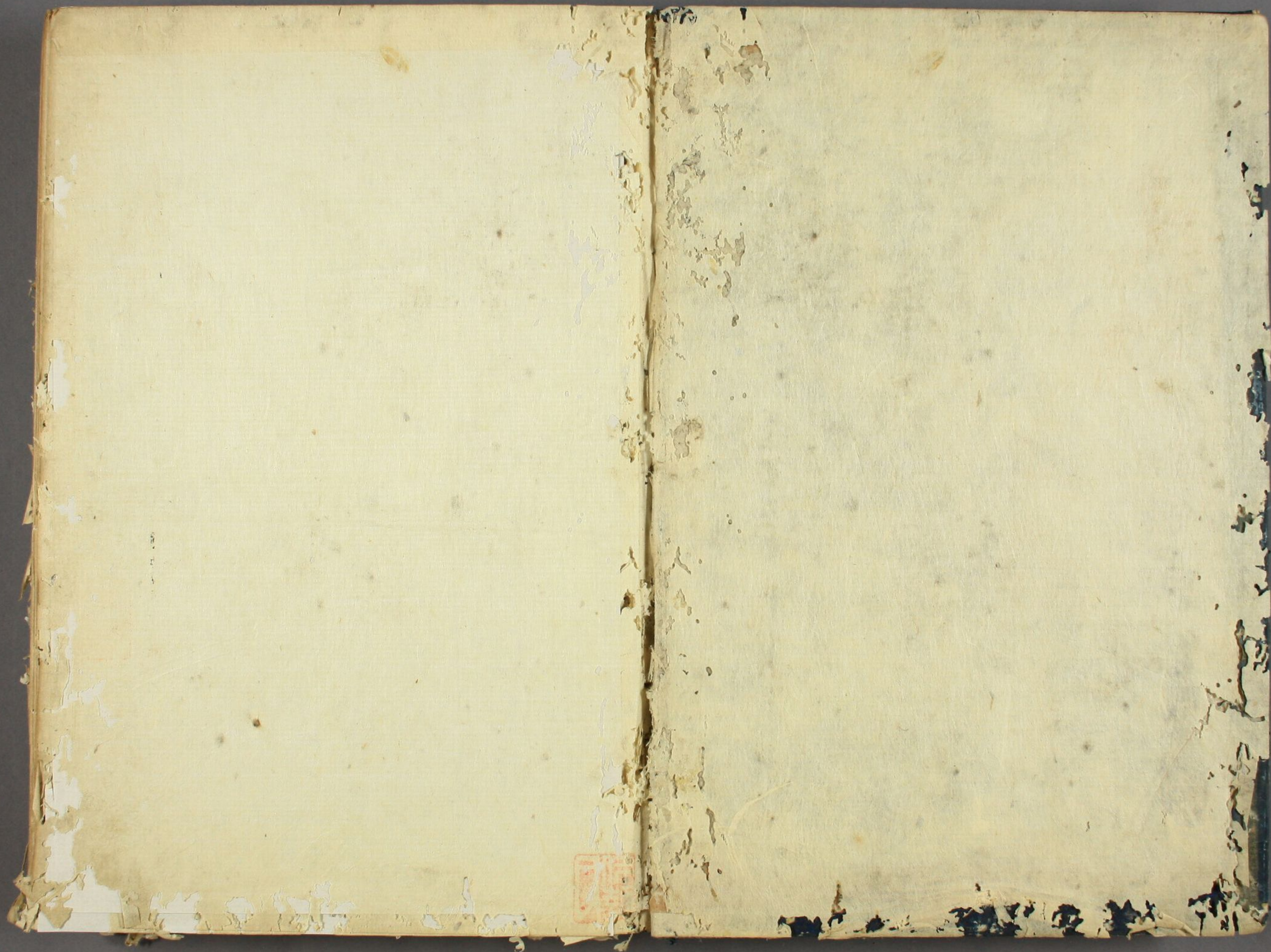




後拾遺和歌集

上





後拾遺和詩集序



わが君あはれしとてうらやましくもわが心は
海は乃こゑなきとてあまのつら圃をうらやま
ゆら事あはれしとてうらやましくもわが心は
月をこゑなきとてあまのつら圃をうらやま
よのの光をこゑなきとてあまのつら圃をうらやま
あはれしとてうらやましくもわが心は
なつ風よあはれしとてうらやましくもわが心は
鳥とあはれしとてうらやましくもわが心は
あはれしとてうらやましくもわが心は

わが拾遺集ようらやましくもわが心は
とて草のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて鳥のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて月のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて風のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて雲のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて雨のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて雪のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて花のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて鳥のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて魚のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて虫のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて木のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて石のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて土のあはれしとてうらやましくもわが心は
とて空のあはれしとてうらやましくもわが心は

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on aged, yellowed paper and is oriented vertically on the right page of an open book. The script is dense and difficult to decipher, but appears to be a form of early modern or medieval cursive. The text is arranged in approximately 10 lines, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The paper shows signs of wear, including staining and some loss of material, particularly along the gutter and the edges of the pages.

後拾遺和評集第一

春上

五月十日入行

小大君

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむとせむと

みらのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

ん

光朝法師母

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

春の上のころをいかにせむとせむとせむとせむと

ん

深師法師母

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

春の上のころをいかにせむとせむとせむとせむと

橋後總朝長

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

寛和二年花山院のころをいかにせむとせむとせむと

大中臣能宣朝長

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

あまのこころをいかにせむとせむとせむとせむと

七等一の御所者つらつら

平福慶

おつらつら御所者つらつら

題一す 加賀た清

おつらつら御所者つらつら

天曆二年大政大長の子年一侍あり

屏風よあり

大中長徳直朝臣

おつらつら御所者つらつら

一某院の西村殿上人金持りつらつら

世一あり 紫式部

おつらつら御所者つらつら

花山院の奇命よつらつら

若原長徳

おつらつら御所者つらつら

若原長徳

おつらつら御所者つらつら

和泉式部

おつらつら御所者つらつら

おつらつら御所者つらつら

のちゆゑにふしとふり

志深哉

けしきの袖はらひのひびくはこころをよそへし事なきに
去り時客はよりの

小辯

にほくはふかしのまよひあつてはあつたつては
入道おとめはた大御食一侍くら屏風は時
客のわづらひぬらふとよりの

藤原捕手朝臣

けしきの袖のひびくはこころをよそへし事なきに

小
御
食
三
七
上

わが屏風は大御食はこころをよそへし事なきに
つらふら

入道おとめはた

看せよあつて使ふはに野邊のまよひをわづらひ
民部は奉告を侍り侍くら時三井寺は
奇命一侍くらよりの

よめん一侍

春まよひは白雲と常れ花らわぬはわづらひつらん
よりのまよひを侍くら

大中は徳宣朝臣

わづらひつらん白雲と常れ花らわぬはわづらひつらん

源為隆
よんたけのり

あつたけのり
藤子内親王の御孫
ありあけのり
ひさしあけのり
侍より

あつたけのり
あつたけのり
あつたけのり

清原元輔

あつたけのり
後醍醐天皇の御孫
よんたけのり
藤原範永朝臣

あつたけのり
小野大政大將の御孫
よんたけのり
清原元輔

あつたけのり
十年つとよ
和集武部

あつたけのり
あつたけのり

三條院御時子以上建を鳳上人の御御成に
御成候へり候とて御成候

御成候

春の野に出る鳥の音の御成候御成候
御成候御成候御成候御成候御成候
御成候御成候御成候御成候御成候

御成候

三條院御時子以上建を鳳上人の御御成に

今上六条より御成候御成候御成候御成候
御成候御成候御成候御成候御成候

袖の御成候御成候御成候御成候御成候

三條院御時子以上建を鳳上人の御御成に
御成候御成候御成候御成候御成候
御成候御成候御成候御成候御成候

御成候

三條院御時子以上建を鳳上人の御御成に

題——寸

氏部之経伝

あふ年より野の露のたふしみかきつるの松よりせり
美暦二年内裏方合より入侍らる

たを申すの實

君代といひていふは松の身七かきつる
二月七日卯白あてりて侍らるより入侍らる

伊豫大物

今より野の松より移りてあつるに若つしん
三月七日卯白あてりて侍らるより入侍らる

うらふらふもあつる道宗朝長のいひわ
りていひて侍らるより入侍らる

うらふらふもあつる道宗朝長のいひわ
りていひて侍らるより入侍らる

白鳥のいひていひて侍らるより入侍らる

和泉式部

美日野家のいひていひて侍らるより入侍らる
後冷泉院御時后のいひていひて侍らる

申す瀨成書

撫とらるる金部といひていひて侍らるより入侍らる

藤三信
くら

長樂寺かへんの露ころから殿のたか

大心御

能因法師

春の露のほろひのさか

露

鑑子の親

春の露のほろひのさか

くら
藤三信

藤三信

くら
藤三信

藤三信

くら
藤三信

能因法師

くら
藤三信

くら

藤三信

雅波しつしつ雅波しつしつ
春乃こころはつらう

権傷心神書

わらわのすまらぬ情はのこみあつらまじり野をさめり
長久二年弘教天皇御宇春

駒とよあり 源道長

まゝまの情はつらうも駒とよありつらう
屏風のちりちりおろしむおろしむ接合
眺めとらふつらう

藤原長能

かたはつてつらうつらうつらうつらうつらうつらう

せしつ 和泉式部

秋まの命もつらうつらうつらうつらうつらう

後冷泉院つらうつらうつらうつらうつらう
よあり 若原範永朝臣

花もつらうつらうつらうつらうつらうつらう
屏風のちりちりの花ある家よつらうつらう
あつらうつらう

平道盛

梅もつらうつらうつらうつらうつらうつらう

何らこころんれん... 梅... 大申長徳宣明

大申長徳宣明

梅の花よりあつこりぬき言のあがり人よあつこり

春の色のやうなあつこり事よあつこり

ゆくら 前大綱云云

春の色のやうなあつこり梅よりあつこり

きつこり 大江嘉言

じつこりあつこりあつこりあつこりあつこり

村上市時... 女... せき...

せき... せき...

清忽元補

梅の花よりあつこり梅よりあつこり

山... 梅...

よみ人...

梅の花よりあつこり梅よりあつこり

前大綱云云

梅の花よりあつこり梅よりあつこり

和泉武部

春... 梅... 山...

山...

道行の心よみ

藤原経衡

きつひの心よみ梅のむらとて東の心よみ
水邊梅花ころもころ散

平仲章朝長

とるひもふのそとる白方梅の心よみ
長樂寺よみすかたのころもころ二月りあまの
りもよみころころ

上東門院中納

かたしは心よみころもころ

きつひの心よみ 小辯

かたしは心よみころもころ

中納言ころもころ 赤深米門

かたしは心よみころもころ

藤原道信朝長

かたしは心よみころもころ

馬内侍

かたしは心よみころもころ

津守園基

かたしは心よみころもころ

わが...
屏風は三月七日...
心よりせん侍らる

大寺長徳道朝臣

わが...
天徳元年回裏...
上野城

上野城

わが...
池袋の...
藤原元真

藤原元真

わが...
二月...
藤原元真

藤原元真

わが...
二月...
藤原元真

藤原元真

春...
藤原元真

大い花見よまわらるるはかたしつるまはるる
きつうらうらうら 有原隆純朝臣
あつたよ町道よつたれい女のらそめいかなわら
二月のころちのたえよ後徳朝臣の依女
実よんまらねりきらふきよれもきつうら
よつらきつうらわらる

貞后文姜作

うやうらまきもわす持まうらよのよれ花のまもわお
花見よまわらるるよまらるる野まうらまら
あつたよつらわらる

後拾芥卷十九

賀茂成助

お萩と秋とくわら道いそんたれまらるる

きつうら

永徳法師

らつたよつらわらるるあつたよつたれい女のらそめいかなわら

中意教時

あつたよつらわらるるあつたよつたれい女のらそめいかなわら

攝え任

あつたよつらわらるるあつたよつたれい女のらそめいかなわら
一葉院河内殿上人花見よまらるるあつたよ
うらまら

源雅國朝臣

おのれはつらつらとくさくさく源君をよぶ

ぬ

感少将

おのれはつらつらとくさくさく源君をよぶ
後冷泉院御時よりたれどもたれどもかた
まのいふらんこころはまのいふらん
はらり侍もらん

三交驛河

おのれはつらつらとくさくさく源君をよぶ
今上の御時よりたれどもたれどもかた

なまゆきのつらつらとくさくさく源君をよぶ

ら

赤大石水音

わくわくとつらつらとくさくさく源君をよぶ
障子繪よたれどもたれどもかた

ら

源重隆

今まじつらつらとくさくさく源君をよぶ

ら

奈豆捕親

それとつらつらとくさくさく源君をよぶ

菅原為言

おのれはつらつらとくさくさく源君をよぶ

てはなれたるふねとていふ成りなり

小辨

おぼろけのまじりのさうりうの道にけいふくあ
長束寺に侍るうらな院よりかきとけい
うらな院よりかきとけい

上東門院中納

おぼろけのまじりのさうりうの道にけいふくあ
白川院よりかきとけい

民部卿長家

東の院よりかきとけい

尺南殿様

高兵衛頼吉

尺の院よりかきとけい
うらな院よりかきとけい
寺よりかきとけい

大貳齋政

まぬまの院よりかきとけい
花よりかきとけい

大申長徳直親長

はな院よりかきとけい
何院よりかきとけい

花見おれいふはなをみおれいふはなをみ
葉式部

道奈法師
花見おれいふはなをみおれいふはなをみ
余もいふはなをみおれいふはなをみ
わが道奈法師
花見おれいふはなをみおれいふはなをみ
余もいふはなをみおれいふはなをみ
わが道奈法師

徳因法師
花見おれいふはなをみおれいふはなをみ
余もいふはなをみおれいふはなをみ
わが道奈法師
花見おれいふはなをみおれいふはなをみ
余もいふはなをみおれいふはなをみ
わが道奈法師

平道盛
花見おれいふはなをみおれいふはなをみ
余もいふはなをみおれいふはなをみ
わが道奈法師

藤原公純朝臣

花よりそりし事も早しあはれ海の家もあはれ
河原右大臣の九条家ゆへ毎も春あはれ
あはれ紙よえゆへ

兼中納言原基

わらわは花よりあはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ

養曆二年の裏奇合よりあはれ

右大臣辨通俊

春のうららぬ櫻をみてあはれ

屏風旅人花よりあはれ

平重盛

花よりあはれ

屏風より三月花の真

あはれ

了後よりあはれ

後冷泉院東宮よりあはれ

花よりあはれ

あはれ

白雲隱法師

うしろをみよすしきくくののまをたかねとらん
通宗期長徳を寺に侍るる時必く之を命
し給るるよしあり

源経法師

あはれ自衛まのこまゆくはまはれさくらさくらん
宗法家大政大臣たかよあんとていつ
し

民部の新信

さしよすめいふのむすしひたはまはれさくらさくら
こさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

侍るる三月のあはれさくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

中納言定頼

桜花散りよふゆはゆはゆはゆはゆはゆはゆはゆはゆはゆは
遠花誰実ともいふらよあり

坊主定成

春をみよすしきくくののまをたかねとらん
さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

源経法師

春いふは松もあす山揚舟もわたの吹雪も人
言陽院の花もう利もわひく東西
中ふ山乃もかんまうあてまねん諸君も
まひくSpringもくもるくもるもあ
いもあゆもくもくもくもあゆもくも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも

徳因法師

春いふは松もあす山揚舟もわたの吹雪も人
言陽院の花もう利もわひく東西
中ふ山乃もかんまうあてまねん諸君も
まひくSpringもくもるくもるもあ
いもあゆもくもくもくもあゆもくも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも

春いふは松もあす山揚舟もわたの吹雪も人
言陽院の花もう利もわひく東西
中ふ山乃もかんまうあてまねん諸君も
まひくSpringもくもるくもるもあ
いもあゆもくもくもくもあゆもくも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも

伊賀抄

春いふは松もあす山揚舟もわたの吹雪も人
言陽院の花もう利もわひく東西
中ふ山乃もかんまうあてまねん諸君も
まひくSpringもくもるくもるもあ
いもあゆもくもくもくもあゆもくも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも
あゆもあゆもあゆもあゆもあゆも

あきしる人侍らるるよふらふのよはくひのそ
じよふらふのよふらふ

大江匡房朝臣

ふらふのよはくひのよふらふのよふらふのよ
ふらふのよふらふのよふらふ

藤原法家

あきしる人侍らるるよふらふのよはくひのそ
じよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ

藤原通宗朝臣

あきしる人侍らるるよふらふのよはくひのそ
じよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ

良暹法師

あきしる人侍らるるよふらふのよはくひのそ
じよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ

加賀内膳

あきしる人侍らるるよふらふのよはくひのそ
じよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ
のよふらふのよふらふのよふらふのよふらふ

源道海

らあ果ふは。海よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。
この山時屏風繪よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。
あらーんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。
この書は。海よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。
大細言の。海よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。
海よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。

中務の具申親王

花よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。
花よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。海よりんらるる。

花よりんらるる

後拾遺和歌集第二

春下

二月三日とれねばはたし

花山院御製

からよつてまらくらむとよみとくはつとちとてはるる

天曆四時の屏風一ものむあつらふとこ

らとよはつら

清原元物

わつらふらまふくむとせ柳むとれしあつらふとて

母さきすのむとれとよあら

出羽辨

あつきの花のむと母さきとせつとあつとれとて

永義五の月祐子の親王家奇命の

そらよこのよとれとてと見侍らふ

よあら

堀河右大臣

はつとあつらふとつとつとつとつとつとつとつと

歌一

田大臣

はつとあつらふとつとつとつとつとつとつとつと

天城元年奇命

平島盛

いづれに
いづれに
いづれに

大中法皇宣明記

橋むしきふらりわさなるあむまよとくみ行しじとる
屏風繪よまのたのしむる鏡たみふなる
こころよふえはるる

源道敏

あふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
右神よのたむきふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
くみふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

右大辨通後

あふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
山崎むとらう 橋成え
はくも道みふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
隣乃いふははらう

河上定成

櫻ららとぬらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
花のたふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

清原元輔

花のけしきもみちのついでに御小御とて御座り侍
 義暦二之内裏後高の奇合はけつとて
 侍々々

藤原通宗朝臣

けしよらもももて御もあぬらそとて侍り侍
 侍一侍

永源法師

いづれもそがのいさくもせいらそとて侍
 三月のりよ花のらそとて侍侍々々

土井内膳殿

うしつら花のらそとて侍侍侍侍侍侍侍侍侍
 永暦五年六月五日祐子の親王の御座り侍合

一侍侍侍侍

大貳之位

少将の御座り侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍

侍一侍 中納言定頼

身とて花のらそとて侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍
 家乃侍侍のらそとて侍侍侍侍侍侍侍侍侍

大江嘉言

あまのぬかみそとて侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍
 自高よとて侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍
 侍 土井内膳殿

初末もどなりてくも自川乃東くもよきまきしゆ
栗田右大臣の妻よんしのいれれをけし
ゆらくしりしゆ

藤原為時

ふりてきつこ花の咲あかり方どおきりともおひし
夜よきくくろあけくらくくゆくわんちる

和泉式部

風よよきふりてくすか海梅ららきもよき^{つれい}けらりゆ
三月りりりし野れあはくくえゆる

近原義孝

野もよきふりてくすか海梅ららきもよき^{つれい}けらりゆ
つれい

和泉式部

岩つくとゆりてくすか海梅ららきもよき^{つれい}けらりゆ
近原義孝

わきりてくすか海梅ららきもよき^{つれい}けらりゆ
月猶とつくとゆりてくすか海梅ららきもよき^{つれい}けらりゆ
よきめものむとてあそいこくもんけらら

大内信能宣朝臣

あめむすかふりてくすか海梅ららきもよき^{つれい}けらりゆ
浪をきる

題一守

秋文書

しりたすやそめりるあつらひのていへりていしすかたを

源為善御状

あつらひのていへりていしすかたを

兼曆三年の夏 寺合よなれたとよめり

入部言實季

水さすしむれたらんさつとていしすかたを

民部の泰恩をいしすかたを

一寺合一守をいしすかたを

よみ人

すまのりかたをいしすかたを

寺一守

なるる守家

あつらひのていへりていしすかたを

大貳高直

あつらひのていへりていしすかたを

長久三年の夏 寺合よなれたとよめり

良運法師

あつらひのていへりていしすかたを

寺一守

藤原長結

あつらひのていへりていしすかたを

法輪上道命法師の侍々らるる御事
あらふ事なかりし御事なかり

法圓法師

我いりて物あふらふと思ふて教まへに御事なかり
三月ついでに御事なかりと侍
々々
中納言定頼

郭公の御事なかりと侍
三月ついでに御事なかりと侍
々々
大中納言法道親長

子親の御事なかりと侍

三月ついでに御事なかりと侍

承胤法師

御事なかりと侍

後拾遺和歌集第三

夏

夏月ついで乃日よあら

和泉式部

梅色よそめ夜とゆふとく山郭公くまわそあら

夏月百部くくす待らとよあら

藤原明衡朝臣

まはるるけ見花色ゆふとく山郭公くまわそあら

梅色よそめ夜とゆふとく山郭公くまわそあら

能因法師

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
冷泉院乃東之文もきく時首首方とつわ
ふあの中一也

深室へ

夏草のじよあわは後よるわ歸るに路わあつたわん
あつす

常孫好忠

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
あつす

大中長補給

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
あつす

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
あつす

藤原通宗親信

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
あつす

よみ人

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
あつす

つゝ道の標の者よなる程に海乃おそるんやわ
あつす

きり

大甲信徳宣朝臣

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし
おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし
おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

はるん

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

伊勢大捕

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

源道雄

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

えき法師

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

おぼしめしおぼしめしおぼしめしおぼしめし

諸河右大臣

子親らぬらばなぬらしてかへりてかへりて
道命法師も守り侍らるる侍らるる

勅書御書

うらやまの御書に御書も侍らるる侍らるる

道命法師

勅書に御書の侍らるる侍らるる侍らるる
^{ボウ}禊子の親王の侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる

勅書御書

勅書に御書の侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる

勅書御書

勅書に御書の侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる
侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる侍らるる

勅書御書

きんぎょの長きうろく鶴のうろくも我はよしのんせじ
一
郭とよきんぎょのうろく

増基法師

ころころおののこまら郭とよきんぎょのうろく
一 一

橋波貞成

ころころおののこまら郭とよきんぎょのうろく
永業五年六月の祐子の親と家寄合の
よろろ

伊藤大捕

きんぎょの長きうろく郭とよきんぎょのうろく

徳因法師

きんぎょの長きうろく郭とよきんぎょのうろく
なるとる房親也

小辨

きんぎょの長きうろく郭とよきんぎょのうろく
祐子の親と家寄合のうろく
おのの長きうろく

宇治前左大臣

おのの長きうろく郭とよきんぎょのうろく

中は... 大長州海の... 侍...

郭公... 赤深...

あ... 相摸守... 郭公...

大正公...

東... 郭公...

法橋忠命

き... 長保... 合...

大江嘉吉

あ... 青...

道命法師

郭... 子親... は...

鄭公の御書

律師長辨

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

法因法師

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

大藏三位

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

小辨

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

永泰六年九月九日の根合の御書に云く

藤原経賢

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

宇治前右大臣家の子孫の御書に云く

五月五日の御書に云く

小辨

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く鄭公の御書に云く

侍立

藤原範永

長生殿

拙後

...

...

...

...

...

侍立

...

...

永長六年...

...

...

...

侍立

...

...

...

...

侍立

...

...

しんみ

大威の儀

あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて

源重光

あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて

源重光

あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて

源重光

あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて

源重光

源頼實

あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて
あまのついでにふりかへりて

かゝるにちかき御心づき

高橋の若さ

夏はあつたにちかき御心づき

大蔵資通

あつたにちかき御心づき

平清盛の御心づき

一ゆゑにちかき御心づき

民部卿長家

夏はあつたにちかき御心づき

中紀言定頼

春の匂にちかき御心づき

道徳の御心づき

らびにちかき御心づき

能因法師

今春の匂にちかき御心づき

常孫好忠

春の匂にちかき御心づき

平島藏

春の匂にちかき御心づき

春の匂にちかき御心づき

堀河右大臣

かまかき夏乃はしく成ゆるる今まはれ給ふこと
くぬのなあちのの月とよあ

内大臣

五州のわらぬ日とみりよ秋とまきく風を
後徳朝とのりともく晩涼如梅とらま
とよみゆめき

源頼朝朝臣

なむあつとさくく冬雪ふりし秋のしらとら
屏風繪しなみのとらよとら乃のつら
あつとら故と地と

大中臣能宣朝臣

と流とあつとあつと春山秋とつらよのまを
つらつらとあつとつらとあつとつら
らえつらあつ

源師賢朝臣

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

伴珠大物

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

後拾遺和歌集卷之四

秋上

あきまはくさのひかりを

よみかへし

あつあつとくさのひかりをよみかへし

由慶法師

あつあつとくさのひかりをよみかへし

あつあつとくさのひかりをよみかへし

藤原為頼朝臣

あつあつとくさのひかりをよみかへし

Handwritten text in cursive script, likely a title or section header.

小辨

Main body of handwritten text in cursive script, consisting of several lines.

大印林經

Main body of handwritten text in cursive script, continuing from the previous page.

Handwritten text, possibly a sub-section or a specific note.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a title or section header.

塔河右大經

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

上經乳母

Main body of handwritten text in cursive script.

Main body of handwritten text in cursive script.

能國法經

Main body of handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a title or section header.

梅元任

待てらるるもよき事ありきとていふは

右大納言

七月七日の夜にうらなひしに
あつと侍らるるよしをいふは
のちとていふは

新納言

七月七日の夜にうらなひしに
あつと侍らるるよしをいふは

とていふは
とていふは

小辨

待てらるるもよき事ありきとていふは
右大納言

新納言

七月七日の夜にうらなひしに
あつと侍らるるよしをいふは
のちとていふは

右大納言

馬所へ念ふにけり梅の影消てりてまきまつくぬれ
花山院東ふとやうくくつ時因院よれつし
あ秋月ともしあきし流るるよふらん侍ら

大藏高孝

秋の影消えよつてよまきの我もわかれつてわ
三木ちぬち長たたよとこまきうお裁ご
ゆへ奇よらんえあらんお十六んをえつて
あらん侍らよ水上の秋月とつてつて
みゆらん

平島誠

あわあきとせとつてあきし秋よえとそつて秋の影

清江右大臣家より奇命侍らつて秋
月とあらん 源為善朝臣
春の月影をわえれよまきの梅も秋もされぬ
河東院よとつてみゆらん

惠慶法師

すこねえ者の命あきと書とつてしとつて梅の影
せいし源 永源法師
あつあつらもわらり秋の月あつあつれ念まつらん
くしあつあつその梅南殿の月とつてわえ
あつあつらつらつらん

源道深

余の幼少のころに父の病に臥せりて
寛和元年八月十日の夜前夜の
時あり

若原長能

父の病に臥せりて
百二日あり

大納言公任

父の病に臥せりて
百二日あり

藤原範永

父の病に臥せりて
百二日あり

父の病に臥せりて
百二日あり

素意法師

父の病に臥せりて
百二日あり

若原長能

父の病に臥せりて
百二日あり

父の病に臥せりて
百二日あり

惟宗為經

父の病に臥せりて
百二日あり

若原長能

寛和元年八月十日裏新命

赤深清

平道藏

大内匡衡朝臣

右大臣長徳

寛和元年八月十日裏新命

赤深清

平道藏

大内匡衡朝臣

右大臣長徳

寛和元年八月十日裏新命

赤深清

平道藏

大内匡衡朝臣

右大臣長徳

月つちよふ影よれとのいふことごとく
よもやまの世にあらば中よるるに
いふことごとく

源頼朝

こころの道にまよふことごとく
いふことごとく

白鳥道行

わが身をまよふことごとく
いふことごとく

源後法師

みづのうらみはつらきことごとく
いふことごとく

つらきことごとく

惠光法師

とらふことごとく
いふことごとく

源頼朝

あつちのうらみはつらきことごとく
いふことごとく

源

麻乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

神制表

此の麻乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

大中臣能宣朝臣

秋乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

源為基朝臣

秋乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

秋乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

法因法師

秋乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

新貴法師

秋乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

秋乃高小秋と云ふことありては、
秋風待麻と云ふことありては、

大貳之信

秋より丹陽を以てのち之を廢すの事ありしに今も之れ

有る事を知りて

麻乃者その事を知りて之を以て之を以て之を以て之を以て

の侍候

小倉や此を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

と云ふ事

と云ふ事

晴々の如き事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

天吉を以て之を以て

のこりたる事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

と云ふ事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

伊藤大輔

秋より之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

と云ふ事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

徳園法師

秋より之を以て之を以て之を以て之を以て之を以て

と云ふ事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

と云ふ事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

と云ふ事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

と云ふ事ありしに秋より之を以て之を以て之を以て

中納言女

念ひおぼしき思ふ心なほおもふくはるき
目しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ

中納言

おぼしき思ふ心なほおもふくはるき
目しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ

筑前乳母

白鷺の心なほおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ

楠則長

しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ

源時綱

しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ

右衛門通宗親信

しほくもおもひの枝よりあはれ
しほくもおもひの枝よりあはれ

藤原範永親信

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり
さゆあまのつら

素意法師

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり

藤原長徳

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり

橋為義朝臣

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり

題一 良暹法師

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり

源親範

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり

大中臣徳宣朝臣

あまのつらみはるるを我れ無くもまのれを
よきまじりてのらりてのりてのりてのり

よるるる

塔河原人住

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

梅則長

あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

清原元盛

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

清原元盛

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

源道深

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

きりぎりす

源道深

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
村の清野の清くあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く

母の文書

いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
清野の清くあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く

いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
清野の清くあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く

三条小右左

いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
清野の清くあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く

信保實抄

いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
清野の清くあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く
いづれもなきあはれもなき言ふ秋の風を吹く

藤原長法

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

大納言傳信母

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

若右衛門

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

源師賢朝臣

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

天曆正治元年八月十五日
清原元輔

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

大納言傳信母

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

開白おた大臣

花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに
花の國の秋の風を思ふに

良暹法師

あまゆふのよからん露のわがわがらのつらさきねて
梅義清の家より命侍くらよむよ姑を
とつてさつとまらさる

源頼家朝臣

秘者本草花とつたね麻の若き野のいり
源頼實

わやと花のまらつた麻の若き野のいり

歌——す

良暹法師

あまゆふのよからん露のわがわがらのつらさきねて

あまゆふのよからん露のわがわがらのつらさきねて
あまゆふのよからん露のわがわがらのつらさきねて

和泉式部

あまゆふのよからん露のわがわがらのつらさきねて

後拾遺和歌集第五

秋下

承和四年乙酉裏の奇合、擲衣とよみ侍る

中細言賀總

町衣あふれよきかきうの秋を我にたてぬつらゆ

伴琳大補

ゆきまふころあきくし秋をけいそぬ金ねね細か

藤原道房別於

うきねむらむぬんぬ衣わらたけくまの海をらねわ

花山院よりせ給くらすよみ侍る

藤原長能

丁卯の酉のついでに新秋の月をぬかすに
遷子の親よりきこむにさくら時九月廿日
あはれあはれなりとてかきまへてあはれ
かきまへてあはれなりとてかきまへてあ
はれなりとてかきまへてあはれなりと

新院中務

月よりして一十月廿日
山家秋風とてかきまへてあはれなりと

大文越前

あはれなりとてかきまへてあはれなりと
あはれなりとてかきまへてあはれなりと

あはれなりとてかきまへてあはれなりと
あはれなりとてかきまへてあはれなりと

源道深

あはれなりとてかきまへてあはれなりと
あはれなりとてかきまへてあはれなりと

菅原行衛

あはれなりとてかきまへてあはれなりと
あはれなりとてかきまへてあはれなりと

長束寺より久保久ららるる御り
のころいふふやわいさうの侍をたよめ

上東門院中御

ころころあいの指よぬ察も麻さくまを結の山里
屏風のあよらるるまよらるるまよらるる
よめ

藤原道房御持

ころころいふふやわいさうの侍をたよめ
とみらあやうらあやうらあやうらあやうら
たよらあやうらあやうらあやうらあやうら

右大辨通後

あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら
あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら
あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら

南慶法寺

あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら
中納言定頼あやうらあやうらあやうらあやうら
あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら

大蔵之位

あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら
上東門院寺よりわらせさゆらあやうらあやうら
あやうらあやうらあやうらあやうらあやうら

頭

つるつるのつるつる

伊勢大捕

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

藤原義忠朝臣

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

後冷泉院法皇のつるつるのつるつるのつるつる

よるつる

大花の長房

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

赤深清門

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

大馬守河田屏風のつるつるのつるつるのつるつる

つるつるのつるつる

清原元捕

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

屏風のつるつるのつるつるのつるつるのつるつる

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

大中に能直朝臣

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

つるつるのつるつるのつるつるのつるつる

よきれく九月つらよよかむらりひつは
とみくよめら 良遣法師

自国はつらひ行な長からくつらよふか
相換る習よりわきまをくつられ
ひきつらよつらひめらくつらねくよめら

右近衛

桂とまふのつらく菊の花はつらよひよめ
血糸からあよよつらつらつらつらつら
ことしつらつらつらつらつらつらつら

中納言定頼

我のつらつらつらつらつらつらつらつら
承業四年の裏奇念つらつらつらつら

中納言資總

つらつらつらつらつらつらつらつらつら
寛和二年正月入道前太政大臣大納言
つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつら

平道儀

町中記名を海子から入らるるものなりと云ふ事
此の事なる事なりと云ふ事なり

法皇之補

皇太后の御成敗の事なりと云ふ事なり
目前の御成敗の事なり

神製衣

神製衣の御成敗の事なりと云ふ事なり
神製衣の御成敗の事なり

法皇清成

法皇清成の御成敗の事なりと云ふ事なり
法皇清成の御成敗の事なり

堀河右大臣

堀河右大臣の御成敗の事なりと云ふ事なり
堀河右大臣の御成敗の事なり

中納言定頼

中納言定頼の御成敗の事なりと云ふ事なり
中納言定頼の御成敗の事なり

能因法師

能因法師の御成敗の事なりと云ふ事なり
能因法師の御成敗の事なり

藤原公範永朝臣

題

藤原公範永朝臣

後冷泉院出村左の文乃奇合まあり

伊勢大捕

秋の節は日よりの水にある

甲賀朝臣梅はのあなあくあ田家秋風あ

源頼家朝臣

常の節は日よりの水にある

赤の石大は安奇合あのあ日ああり

あ

秋の節は日よりの水にある

源頼朝朝臣

名はすはたのあるあるあるあるある

九月晝日情秋あるあるあるある

藤原公範永朝臣

わさあはるあるあるあるあるある

九月晝日情秋あるあるあるある

あはるあるあるあるあるある

九月晝日情秋あるあるあるある

法眼源貫

秋のころかきあはせし世の多きかきあはせし

九月蓮の白くあはせし物よりいふらふ

大氣源貫通

ちつとるかきあはせし物よりいふらふ

九月海原よりいふらふ

源貫長

秋のころかきあはせし世の多きかきあはせし

後拾遺和詩集第六

冬

十月のついでにうらやまのふりこも大井河
あつたついでにうらやまのふりこも大井河

前大納言公任

むらつとあつたついでにうらやまのふりこも大井河
十月のついでにうらやまのふりこも大井河

大僧正深覺

たじろあつたついでにうらやまのふりこも大井河
美保二年十月今上みおれついでにうらやまのふりこも大井河

とほつとあつたついでにうらやまのふりこも大井河

内膳長

大井河あつたついでにうらやまのふりこも大井河
あつたついでにうらやまのふりこも大井河
あつたついでにうらやまのふりこも大井河

藤原忠房朝臣

あつたついでにうらやまのふりこも大井河
あつたついでにうらやまのふりこも大井河

承胤法師

あつたついでにうらやまのふりこも大井河

藤原朝臣の御事

源頼朝

本朝の御事

藤原朝臣

御事

十月

法因法師

御事

御事

楊義通朝臣

御事

中宮

御事

藤原朝臣

御事

くら

堀河右衛門

あはれ風あつちあひまらへ千鳥あつちあつちあつちあ

あつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

大貳三位

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ
障子あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

民部卿長家

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

律師長瀬

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあ

あはれいんりやあはれ

大中臣能宣朝臣

霜の草花をうらあはれまねがらふの心をいふ
霜のむすぶ心あはれ

少輔

あはれいんりやあはれ
霜の草花をうらあはれまねがらふの心をいふ

あはれいんりやあはれ

あはれいんりやあはれ
あはれいんりやあはれ

あはれいんりやあはれ
あはれいんりやあはれ

橋後總朝臣

あはれいんりやあはれ
あはれいんりやあはれ

あはれいんりやあはれ

あはれいんりやあはれ
あはれいんりやあはれ

あはれいんりやあはれ

あはれいんりやあはれ
あはれいんりやあはれ

深原武部つゆのふたの家よ、松がらの香、
つらき人々の侍をらふよあはら

藤原圃行

あはれも松がらあはれぬ松がら、
降初朝は甲斐守のつらき侍をらふよあはら

紀式部

あはれも松がらの白根をらふよあはら、
あはれも松がらの白根をらふよあはら

能因法師

あはれも松がらの白根をらふよあはら、
あはれも松がらの白根をらふよあはら

源道師

あはれも松がらの白根をらふよあはら、
あはれも松がらの白根をらふよあはら

慶壽法師

あはれも松がらの白根をらふよあはら、
あはれも松がらの白根をらふよあはら

若原圃房

あはれも松がらの白根をらふよあはら、
あはれも松がらの白根をらふよあはら

津守國基

あはれも松がらの白根をらふよあはら、
あはれも松がらの白根をらふよあはら

屏風のあしりさきわあはれまはるのまじり
あらしは鏡よけなす

赤染朱門

春のあけふのさかすまのさかすまのさかすまの
道雅三位のさかすまのさかすまのさかすまの
乃あらしは鏡よけなす

藤原経衛

春のあけふのさかすまのさかすまのさかすまの
源頼家朝臣

春のあけふのさかすまのさかすまのさかすまの

法師よあしりさきわあはれまはるのまじり
乃あらしは鏡よけなす

信輝法師

法師よあしりさきわあはれまはるのまじり
乃あらしは鏡よけなす

あしりさきわあはれまはるのまじり
天壽の由野法師屏風のあしりさきわあはれまはるのまじり
乃あらしは鏡よけなす

清忠元捕

我高のあしりさきわあはれまはるのまじり
乃あらしは鏡よけなす

書かたのりた大納言のり
し

道安大政大臣

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

道安大納言

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

頼慶法師

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

時賢法師

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

僧部長兼

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

曾孫好孝

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

善忠孝善

ねんをきくしるるをいふ
書かたのりた大納言のり
し

後三念院東

の言めらるゝとみゆるあり。

藤原明衡朝臣

白鳥よあしらのあまのいかにわが身をいかに守つて

十二月のついでわがら痛き園より出羽弁

の言めらるゝとみゆるあり。

源為朝朝臣

多岐のついでわがら痛き園より出羽弁

後拾遺和評集第七

賀

天曆神時賀の屏風奇立春

源順

きんぎょのめりてしむらじり世のまよわぬと
入道接政の賀一侍くら屏風よあつた
わらわらめりくらよあら

平道盛

朽もどりの梅のうけしむらじり世のまよわぬと
わらわらめりくらよあら

よあら

しうれよまの晴もふんせいの末をさくら
東之東院宇賀一侍くら屏風よあつた
わらわらめりくらよあら

源道隆

わらわらめりくらよあら
前大信正明多九十賀一侍くら宇治あつた
政もたたらあつた
よあら

前律師慶暹

あつた

いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに

右大臣那房

いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに

清原元輔

いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに
いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに

赤染衛門

いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに

いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに

右大臣

いかにせむかきく田舎のわらわら
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに
あつていかにあつていかにあつていかに

清原公家

北山院御製

鳥事よまのあまの梅子のこぼれくわあまのたはまの
後三東院えんこのまに申々ら時今よあひなく
おりせらよあまのあまのあまのあまのあまのあまの
ねんねんねんねんねんねんねんねんねんねんねん
侍々々

伊豫大輔

君みねらあまのあまのあまのあまのあまのあまの
一
因院贈左政大臣

くわあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまの

紀伊守為之助あまのあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

清原大輔

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

人かまかたかかかかか

後者補のいふやうにその語のたはひは

かかかかかかかかかかかかかか

かかかかかかかかかかかかかか

きりりり

源吉の書

つるにありて平年其のつるにありて

大中の捕長とつる浦をたつる浦外威

らめく物報云質行りりりりりりり

藤原保昌朝臣

かこくろおれれもらりりりりりりり

三東院みこの文と申する時節日の疎

よよりりり 大の書

君代らよつていひわらひの書つる山

義暦二年の裏奇合りりりりりりり

民部卿の信

君代つるごとをかりし難風やみ

宇治おち政大臣の家よ舟海の夜

よよりりり

藤原為盛母

思ひつらふらふの君をいふはふらふの君をいふ
永業の年の裏奇合子松とよふ

能因法師

かきつらふの松をたぬらふせ乃の松をたぬらふ
れあし奇合子とよふ

式部大納言業

君母とよふ玉接りらふとよふとよふとよふとよふとよふ
冷泉院とよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
もつとよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ

おむね

若くは龍とよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
東三条院とよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
あつとよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ

お大君

若くはとよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
用白お大とよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
つらふとよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ
よふとよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ

お大君

あつとよふとよふとよふとよふとよふとよふとよふ

とつきの新長母波身めく侍くら村の松ふ
れ時をまつかの使めくら村松と松の
侍くらとくら

良蓮法師

ふ母とつきの新長母波身めく侍くら村の松ふ

後冷泉院の村大尊會の屏風を以て園松

松樹多生

武部大輔資業

美ふふのつきの新長母波身めく侍くら村の松ふ

松の屏風の大倉山とよあり

うらむのつきの新長母波身めく侍くら村の松ふ

陽明門院とつきの新長母波身めく侍くら村の松ふ

とつ

松樹多生

うらむのつきの新長母波身めく侍くら村の松ふ

後拾遺和詩集第八

別

糸自捕親あまのふりかへるに
乃れ出のふらあまのふりかへるに
あつらへるに

惠慶法師

とみらえん砂の秋とてあまのふりかへるに

糸自捕親

けしき都がしらあまのふりかへるに
あまのふりかへるに

よきことなるをばしめしむるは

源道深

しるすことばをばしめしむるは
東にさかすまの光りては

増基法師

まはるるをばしめしむるは
まはるるをばしめしむるは
しるすことばをばしめしむるは

藤原道隆

かたがはのまはるるをばしめしむるは

らるるをばしめしむるは
こゝろ源為朝

藤原惟親

あはれをばしめしむるは
あはれをばしめしむるは
あはれをばしめしむるは

藤原長能

あはれをばしめしむるは
あはれをばしめしむるは
あはれをばしめしむるは
あはれをばしめしむるは

鑑子の歌

つるさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

一

藤原為公

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

一

藤原道隆

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

一

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

藤原倫道

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

一

藤原道隆

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

一

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

藤原法師

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

一

あふさきみづのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよのうらみよ

Kenji's ...
...
...

慶範法師

...
...
...

良勝法師

...
...
...

徳因法師

...
...

春花秋月

...
...
...

源道長

...
...
...

源道隆

夢に世一箇にんをみゆきまはるるに
のよきものありてはなほまはるるに
よみゆきまはるる

にまらば道よありてはなほまはるるに
よみゆきまはるるに

中細言定頼

ちよれ松の園路いさひらひしてまはるるに

ぬ — 涼光成

にんをみゆきまはるるに
にんをみゆきまはるるに

にんをみゆきまはるるに

涼光成

夢に世一箇にんをみゆきまはるるに
のよきものありてはなほまはるるに
よみゆきまはるるに

涼光成

夢に世一箇にんをみゆきまはるるに
のよきものありてはなほまはるるに
よみゆきまはるるに

こゆらあいのわねんききまふらうそまふらう
ゆらねんゆらうまう

糸子補親

わきまふらうもまふらうから今ふらうのゆらうま
揚道是貞一負志まふらうまふらうのらあま
ゆきねん式部まふらうまう

赤深染門

ゆきまふらうまふらうまふらうまふらうまふらう
物まふらうまふらうまふらうまふらうまふらう
まふらうまふらう

中忍頼成

まふらうまふらうまふらうまふらうまふらう
まふらうまふらうまふらうまふらうまふらう
まふらうまふらうまふらうまふらうまふらう
まふらうまふらう

糸子補親

まふらうまふらうまふらうまふらうまふらう
まふらうまふらうまふらうまふらうまふらう

糸子補親

後拾遺和詩集第九

羈旅

しゆくわがわづらみらまはるる野を
よみとるん侍り

堀河大政大臣

あまのつゆささるる野をよみとるん侍り
十月のあまのつゆささるる野をよみとるん侍り

藤原大納言

あまのつゆささるる野をよみとるん侍り

一

中納言定頼

たのむるにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の

花山院の御衣

あはれに思ひてはまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の

懐因法師

あはれに思ひてはまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の

妙捕

あはれに思ひてはまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の

有原園行

あはれに思ひてはまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の

能因法師

あはれに思ひてはまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の
くまの道^のにまゝにあらざりてはまゝに道^の

深其法師

Handwritten text in cursive script, likely a title or introductory line.

増基法部

Handwritten text in cursive script, first main paragraph.

増基法部

Handwritten text in cursive script, second main paragraph.

新撰法部

Handwritten text in cursive script, third main paragraph.

Handwritten text in cursive script, first main paragraph on the right page.

新撰法部

Handwritten text in cursive script, second main paragraph on the right page.

Handwritten text in cursive script, third main paragraph on the right page.

為吾初書多の尋めくしてわたりたり
そのまじいふらふちりあつたおのいふまじい
さうばたむらうらえむあら

能因法師

白雲のふらむら若衆のあつたむらうら
東のふらむらむらむらむらむらむらむら

深草

東のふらむらむらむらむらむらむらむら
らむらむらむらむらむらむらむらむら
あつたむらむらむらむらむらむらむら

らむらむらむらむらむらむらむら

大江山御願

あつたむらむらむらむらむらむらむら
あつたむらむらむらむらむらむらむら

能因法師

あつたむらむらむらむらむらむらむら
あつたむらむらむらむらむらむらむら
あつたむらむらむらむらむらむらむら

あつたむらむらむらむらむらむらむら
あつたむらむらむらむらむらむらむら
あつたむらむらむらむらむらむらむら

あまのついで

よふゆふのついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

大正法道期占

ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

大正法道期占

ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

あまのついで

大正法道期占

あまのついで
あまのついで
あまのついで
あまのついで
あまのついで

大正法道期占

あまのついで
あまのついで
あまのついで
あまのついで
あまのついで

大正法道期占

あまのついで
あまのついで
あまのついで
あまのついで
あまのついで

いふにふくむるはさかたに
いふにふくむるはさかたに

康平の母

日かげのまはるるはさかたに
うしろのまはるるはさかたに
うしろのまはるるはさかたに

橘為義朝臣

都へはるるはさかたに
いふにふくむるはさかたに

若菜園の

都へはるるはさかたに
いふにふくむるはさかたに

西宮のおおき

あつちのまはるるはさかたに
いふにふくむるはさかたに
いふにふくむるはさかたに

お田代

あつちのまはるるはさかたに
いふにふくむるはさかたに
いふにふくむるはさかたに

中紀六済度

ふもいふ都府あもりせあうて露の草よふ
ふのうまふ十二日の十日ころよあふのあ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

武部大捕済業

ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

右大辨通後

わあふふふの増あふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

楊為仲朝臣

ふふふの月あふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふ

保道所

ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

源道長

あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま

源道長

あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま

命婦乳母

あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま

あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま

たふね朝光

大納言行成

あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま
あまのついでにわがまはあまのついでにわがま

一条院の御教

一冊目

Handwritten text in cursive script, likely a list or index, starting with a vertical line and several lines of characters.

Handwritten text in cursive script, including a vertical line and several lines of characters.

Handwritten text in cursive script, including a vertical line and several lines of characters.

徳国法

あつてはなすことなすこと
右昔昔後實子よむの事なすこと
らつてはなすことなすこと

右大信書

さつてはなすことなすこと
あつてはなすことなすこと
らつてはなすことなすこと

あつてはなすこと

あつてはなすことなすこと

さつてはなすことなすこと
あつてはなすことなすこと
らつてはなすことなすこと

あつてはなすこと

あつてはなすことなすこと
あつてはなすことなすこと
らつてはなすことなすこと

あつてはなすこと

あつてはなすことなすこと
あつてはなすことなすこと
らつてはなすことなすこと

あつてはなすこと

あつてはなすことなすこと
あつてはなすことなすこと
らつてはなすことなすこと

清和天皇御崩御の御事
とてきこはるるに元捕り
とておぼしめし

源順

よのまの御事かたよき
御則長あまの御事
まろくき

橘季通

よのまの御事かたよき
橘冷泉院ははらけ
ゆき

よのまの御事かたよき
武部命

武部命

よのまの御事かたよき
後三條院ははらけ
よのまの御事かたよき
よのまの御事かたよき
よのまの御事かたよき

田沼内侍

よのまの御事かたよき
二条宮を改めし

おぼろおぼろ義孝

今いふにちりちりしつらふとていふは
お武部の侍あつたふとていふは
よみくよみくはむら

おふらふ

らふとていふはむらふとていふはむらふとていふは
一系院とていふはむらふとていふはむらふとていふは
とていふはむらふとていふはむらふとていふは
あつたふとていふはむらふとていふはむらふとていふは

上東門院

とていふはむらふとていふはむらふとていふは
からむらふとていふはむらふとていふはむらふとていふは
くはむらふとていふはむらふとていふはむらふとていふは
おぼろおぼろ義孝
おぼろおぼろ義孝
おぼろおぼろ義孝

大江通房朝臣

おぼろおぼろ義孝

君の之をのつたよもつらむとてかしの露の露の計た
赤深匠補よとつたよもつたよもつたよもつたよもつた
くもつた

美作三位

皇深のたりとつたよもつたよもつたよもつたよもつた
園鞆院法皇とつたよもつたよもつたよもつたよもつた
くもつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた
くもつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた
れをせ給ひつたよもつたよもつたよもつたよもつた

一乗院御製

これとつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた
後冷泉院とつたよもつたよもつたよもつたよもつた
くもつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた
かねのかりとつたよもつたよもつたよもつたよもつた
あつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた

藤原系殿御製

くもつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた
成順よとつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた
つたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた

伊勢大輔

かみとのつたよもつたよもつたよもつたよもつたよもつた

十月七日甲子の御書
十月七日甲子の御書
十月七日甲子の御書
十月七日甲子の御書

赤澤場

赤澤場の御書
赤澤場の御書
赤澤場の御書
赤澤場の御書

出羽辯

出羽辯の御書
出羽辯の御書
出羽辯の御書
出羽辯の御書

出羽辯の御書
出羽辯の御書
出羽辯の御書
出羽辯の御書

赤澤場

赤澤場の御書
赤澤場の御書
赤澤場の御書
赤澤場の御書

源信宗朝

よあつたあつたはははは

きんぎょの袖のうらぬがし 秋まゝあつた

こころいふ海もつらつらつら 秋のうら

まゝなつた 少将のうらつたつたつた

ゆゑあり

わが事成るまじきよきよきよきよきよきよ

わつたつたつたつたつたつたつたつた

かみよきよきよきよきよきよきよきよ

そせよきよきよきよきよきよ

むかしはあつたあつたあつたあつたあつた

よきよきよ

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつた

